

# 埼玉トヨペット



# Green Brave

# NEWS



2014年11月8日(土)・9日(日) オートポリス(大分県日田市)

スーパー耐久シリーズ 2014 第6戦 TKUスーパー耐久レース in オートポリス

## 全員で勝ち取ったオール自社チーム初の2位 喜びと自信を胸に来季での飛躍を誓う

決勝結果

**ST-4 クラス 2位**

52号車 埼玉トヨペット GreenBrave

ドライバー

番場 琢選手/服部尚貴選手/平沼貴之選手



ついに表彰台へ！ 平沼選手がトロフィーを高々と持ち上げる

<11月6日・7日>練習日……………実質1週間のインターバルで再び戦いの場へ

チーム一丸となってクルマを修復し、6位でフィニッシュした前戦からわずか2週間。埼玉トヨペット Green Brave のスタッフの姿は大分県日田市にあった。スーパー耐久シリーズ 2014 の最終戦が行われるオートポリスは、熊本との県境に近い山の中腹にある1周 4,674m のサーキット。激しいアップダウンと中速コーナーが連続するテクニカルコースだ。

スタッフは6日に現地入り。今回は店舗に所属する4人のサービスエンジニアがチームに加わっているが、4人全員が実戦経験者。そのうちの1人、加須

第4戦以来の参加となる  
宇都エンジニア。ホイール  
ガンを担当



前回のレースで破損し交換  
したリアバンパーは塗装さ  
れ、元通りの姿に

支店の宇都エンジニアは第4戦岡山以来の参加だ。午後から番場選手と平沼選手が走行開始。クルマは実質1週間というインターバルの中で、最大限のメンテナンスを行い、オートポリス用のセッティングを施してきた。今回の目標が今シーズンのベストリザルト更新(4位以上)であることは言うまでもないが、2戦連続での完走実績がないこともあり、徹底的に準備してきたのは想像に難くない。7日から服部選手も走行を開始。予選と日曜日の決勝(3時間)に向けての総仕上げを行った。

<11月8日>予選……………番場選手がグループトップタイムをマーク！ 合算で予選3番手に

10時45分からスーパー耐久のフリー走行がスタート。服部選手→平沼選手→番場選手の順でマシンの感触を確かめていく。番場選手が2分5秒377をマークし、5番手に。オートボリスは上りながらコーナーを立ち上がる所が多く、トラクションに優れるFR（後輪駆動）の86に有利なレイアウト。コース脇で見ている86と同じFRのホンダS2000は明らかに速い。

14時50分から2グループのAドライバー公式予選がスタート。番場選手がコースインする。番場選手はクリアラップを見つけ、グループトップとなる



走行終了後、エンジニアと握手する番場選手



予選終了後には念には念を入れてミッションを交換

2分3秒127をマーク！クルマを温存するため早々にピットインする。続いて2グループBドライバーの公式予選。服部選手もきっちり4番手タイムをマークし、合算タイム4分6秒985で見事3番グリッドを獲得した。第2戦菅生以来（予選2位）の好ポジションに沸き立つピット。オートボリスにクルマがマッチしているのはもちろんだが、事前に施したセッティングが功を奏したのは言うまでもない。予選終了後は所定のメンテナンスを行い、この日のスケジュールは終了。これまでのレースとは比べ物にならない順調さに、決勝への期待も高まる。

<11月9日>決勝……………作戦がピタリとはまりオール自社チーム初の2位

決勝日。予報通り天気は雨。空は一部明るくなっていて、天候と路面の読みがレースを左右しそうな気配だ。8時30分からフリー走行がスタート。番場選手→平沼選手→服部選手の順でコースインする。川尻監督はこの時点でスタートドライバーを決めていなかったが、その後コースが乾きはじめるのを見て、スタートドライバーに平沼選手を指名。今シーズン、スタートドライバーを3回経験し、安定感の出してきた平沼選手で序盤の混乱を乗り切り、番場選手、服部選手へとつなぐ作戦だ。



降ったり止んだりを繰り返した決勝当日

12時50分からスタート進行。午前中にサポートレースが行われたこともあり、路面はほぼドライだが、雨はポツポツと降ったり止んだりを繰り返している。平沼選手



約40人の大応援団が駆けつけ、チームに声援を送った

も緊張しているのが分かる。13時23分、1周のフォーメーションラップの後、3時間の決勝レースがスタート。まわりをよく見ながら後続をおさえ、落ち着いたスタートを決める平沼選手。オープニングラップを終えて6番手でストレートに戻ってくる。数周到わたって順位をキープする力走を見せ、7周走ったところで番場選手に交代。番場選手はハイペースで追い上げを開始し、1時間終了時には6番手、2時間終了時には3番手まで浮上！

2時間が経過し、いよいよ表彰台圏内かという時にコース上でアクシデントが発生。セーフティカーが入るとほぼ同じタイミングで番場選手がピットイン。そして、スムーズなピットワークで服部選手をコースに送り出すサービスエンジニアたち。その後服部選手はベテランらしい力強い走りを見せ2位に浮上。先頭を行くS2000を全力で追ったが惜しくも届かず、2位でチェッカー。クルマを降りた服部選手はトップに追いつけなかったことの悔しさをにじませながらも、やるべきことをやった達成感からか、満足気な表情。3人のドライバーは念願の表彰台に上り、スタッフや多くのファンからの祝福を受けた。



6番手をキープする走りを見せ、スタートドライバーの大役を果たした平沼選手

ここまでなかなか噛み合わないレースが続いたが、最終戦ですべてがピタリとはまり、最高の結果を残した埼玉トヨペット Green Brave。今回得た大きな喜びと自信を胸に、2015年は表彰台の頂点を狙っていく。

VOICE FROM DRIVERS&TEAM PRINCIPAL

クルマの状況も良く、非常に良いペースで走れました。最後のピットインのタイミングが悔やまれますが、これも運。最終戦で表彰台に上げて良かったです。去年は3位で今年は2位。来年はまだとったことのない1位を狙い、ランキングでもトップを狙います。



(番場 琢選手)

オール自社チームで表彰台に登ることができ、良かったと思います。クルマのバランスもそれなりに良かったので、1位を見ながらずっとプッシュしていました。もう少し近かったらと思いますが、やれることをやっての2位なのでしょうがないです。



(服部 尚貴選手)

最後に表彰台に登れて良かったです。1位との差が接近していたので惜しかったです。2位でフィニッシュでき、みんなの努力が報われました。難しい状況でのスタートドライバーでしたが、番場選手へしっかりとつなげることができ、とても幸せです。



(平沼 貴之選手)

ホッとしています。オートボリスに来るまでいろいろな事がありましたが、苦労した甲斐があったというのが本音です。2週間という限られた時間の中でしたが、モータースポーツ室のスタッフを中心にチーム一丸となり、全力で準備した結果ですね。



(チーム代表：岩田 勝俊)